

<減肥ポイント>

- 6月立茎前の土寄せ時に肥効調節型肥料を組み合わせた全量一回施肥(省力:追肥不要)
- 可給態リン酸が120mg/100gを超えたほ場ではリン酸肥料を削減(リン酸肥料コスト削減)

(1) 窒素の総施用量を削減する技術

アスパラガス長期どり栽培では、**被覆肥料を使って窒素を20%削減**することが出来る。6月立茎前の土寄せ時に肥効調節型肥料を組み合わせた全量一回施肥は、追肥が不要で窒素成分で**20%減肥しても速効性肥料の分施より収量が増加**する。

緩効性肥料利用で、2割減肥

表1 アスパラガス栽培の施肥設計¹⁾ (平成23, 24, 25年長野県野菜花き試験場)

試験区	施肥時期 ²⁾	窒素施用量(kg/10a)					追肥窒素		窒素全量
		基肥窒素			小計	6月	8月		
		速効性肥料	被覆尿素リニア型	被覆尿素シゲモイド型					
○ 4月施肥	4月	—	16 ⁴⁾	16 ⁵⁾	32	—	—	32	
◎ 6月施肥	6月	10 ⁶⁾	22 ⁷⁾	—	32	—	—	32	
慣行分施	4月, 6月, 8月	20 ⁸⁾	—	—	20	10 ⁹⁾	10 ⁹⁾	40	

注) 1) 表中—は未施用、リン酸・カリは全区共通に施用、2) 4月:表面施用し土寄せまで表面露出、6月:施肥後の土寄せにより速やかに土壌中に混入、4)LP40日タイプ、5)LPS100日タイプ、6)硫安、7)LP70日タイプ、8)粒状配合肥料アスパラ1号、9)NK化成

【耕種概要】試験場所:塩尻市宗賀(標高750m)、平成23年まで露地栽培で平成24年以降は1畝毎の簡易ビニール被覆栽培、土寄せ:6月、1区10㎡(3反復)、表層腐植質黒ボク土(土性SiL)

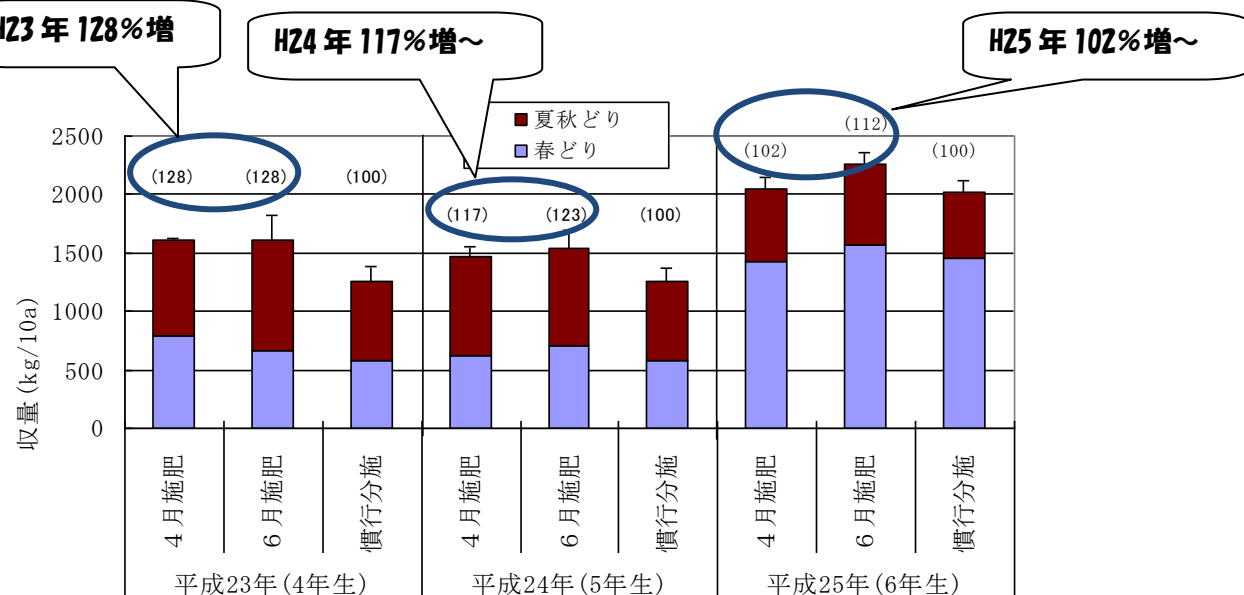


図 場内試験におけるアスパラガス収量の比較 (平成25年 長野県野菜花き試験場)

注) 図中エラーバーは全収量の標準誤差、()内数値は各試験年の慣行分施肥区を100とした指数

(2) リン酸を削減して施肥コストを低減する技術

アスパラガスでは**可給態リン酸が 120mg/100g を超えたほ場ではリン酸肥料を削減**して、リン酸成分の不要分の施肥コストを削減できる。また、土壌診断によりカリ成分が過剰なほ場ではカリ成分も削減できる。

(3) 有機質肥料、有機物を利用して化学肥料を代替する技術

前記した「Ⅲ 有機物の肥効特性」を参考にして、基肥の窒素成分を化学肥料から有機物に代替して化学肥料を削減できる。アスパラガスでは「Ⅴ 実証試験等での施肥事例」の有機物（おがくず牛ふん堆肥、なたね油粕）の肥効を活用した施肥が参考になる。

<関連普及技術>

- ・アスパラガスの露地長期どり栽培では6月立茎前の肥効調節型肥料の全量1回施肥により窒素を20%減肥できる（平成25年普及技術）
- ・アスパラガスの可給態りん酸過剰圃場ではりん酸肥料が削減できる（平成21年普及技術）
- ・アスパラガス圃場へのコーンコブ廃培地堆肥施用量は3t/10a程度が適正量である（平成18年普及技術）
- ・半促成アスパラガスの窒素施肥適量は25～30(kg/10a)で配分は基肥に3月肥30%5月50%追肥に20%がよい（平成2年普及技術）
- ・アスパラガス成園における草勢回復には液状肥料の注入施肥が有効である（昭和63年普及技術）